

## まちづくりの理念 に関して

- まちづくりの定義
- 住みよさの最大化の実現
- 「常に良い方法にアップデート」する方法、推進するしくみ

### 《主な意見》

- 近年使われる「まちづくり」=「地域における市民による自律・継続的な環境改善活動」  
(地域市民が安全・安心、福祉健康、景観・観光魅力の環境改善を自律的かつ継続的に行うこと)
- 「住みたいまち」が人によって違うので、最大値(+現実味)で優先順位をつけるべきではないか
- 資料上、常に良い方法にアップデートする方法が見つからない。身近なことなどを記載してはどうか
- 目標に向かう施策が「間違っていないこと」を「常に良い方向にアップデート」して検証してはどうか

## 経営指針の目標 に関して

- 達成困難な目標設定
- 目標期間の設定、目標の具体化

### 《主な意見》

- 5ポイントは、ポイント高いものでは達成困難。(特にアンケートでは)外部評価委員会により評価はどうか
- 達成のため、目標は3つくらいがよいのではないか。また、計画期間は長すぎないほうが良い(5年は了)
- 予測は3年程度が限界ではないか。その場合「3年以内に●●(具体)を実行する」等の目標ではどうか
- 優先順位を決めて一つひとつ結果を出すため、具体的な目標値を定めるべきではないか

## その他

- 資料の可視化
- 計画の構成
- 意見の取り入れ方
- テーマ設定の理由付け、重点選別化
- 経営指針の推進体制

### 《主な意見》

- 現在の資料を短い映像にしてはどうか(アカデミアの一環としての取組も可、高校生の意識づけも視野に)
- 従来の総花的な計画からいきなり激変するのは難しい。リーダーシップを発揮できる総合計画も意識する必要
- 「市民意見」といっても、様々な視点がある。そのすべてに迎合する必要はない
- 重点テーマ選定に至る理由がない(強:地理環境、弱:暮らし文化⇒これからは「暮らす」まちに…等)
- 「住みよい」のであれば「まちづくり」への参加は減る。目標は「まちづくり」を重視すべき
- 従来のPDCAサイクルの頻度を定め、評価主体(市長が妥当)なども明らかにするべきではないか